



# エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

平成21年3月9日

環境大臣 齊藤 鉄夫 殿

株式会社 資生堂

代表取締役社長

新田 新造

株式会社 資生堂は 創業以来136年間、地球の恵みへの感謝と、文化創造の精神を大切にしています。毎日のスキンケアで、ひとびとの美しさづくりをサポートしてきた資生堂が、地球環境のためにできること。

それは、美と環境の新しい結びつきを提案し、積み重ねてゆく活動であるととらえます。

「一瞬も 一生も美しく」というコーポレートメッセージのもと、

企業の社会的責任に基づく基本的な環境活動から、資生堂ならではの環境活動までを結集し、大きな力に変えてまいります。

## 1. 地球温暖化防止に向けた取り組みを積極的に推進します。

- ①低炭素社会の実現(福田ビジョン:2050年60～80%削減)に向けて、事業活動からのCO2排出量削減に取り組みます。
  - 国内工場は、1997年度に約束した「2010年度に15%削減(1990年度比原単位)」を達成します。
  - 海外工場は、2010年度に10%削減(2007年度比原単位)します。
- ②カーボンニュートラルな植物由来の素材を商品の原材料として積極的に活用し、商品由来のCO2排出量を削減していきます。
- ③太陽光発電などの技術開発の進展(効率向上など)に合わせながら、事業所での自然エネルギー利用を拡大するとともに、植林やクリーン開発メカニズム(CDM)など、事業所外での地球温暖化防止の取り組みも推進し、社会全体でのCO2排出量削減に貢献していきます。
- ④「従業員の家庭でのCO2排出量削減」の仕組みを構築し、継続的な削減を図ります。

## 2. 循環型社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進します。

- ①循環型社会の実現に向けて、事業活動からの廃棄物のリサイクルに取り組みます。

国内全工場、海外4工場、本社、研究所で達成している廃棄物のリサイクル率99.5%以上とする取り組み(熱回収を含む)を今後も継続し、他の海外工場や非生産事業所(販売等)などにも拡大していきます。
- ②商品の開発においては、地球温暖化、廃棄物増大などの環境問題への対応として、現行の環境配慮設計基準(省資源、リサイクル対応など)をさらに進化させ、環境に配慮した原料選定や材料設計を徹底します。そして、後述のナンバリング相当の環境貢献商品を、毎年1件以上を目標に実現化していきます。
- ③商品の容器包装については、3R(reduce, reuse, recycle)の考えに基づき、レフィル(詰め替え)製品の拡大や容器の軽量化などを推進し、容器包装使用量を削減していきます。レフィルについては、これまで商品化が困難だったカテゴリーへの拡大、より簡便に詰め替えられる新型レフィル容器の開発など、毎年1件以上を目標にチャレンジしていきます。
- ④容器の主素材であるポリエチレン樹脂については、有限な石油資源の節約を目的に、素材メーカーと連携し、石油由来の樹脂から植物由来の樹脂に切り替えます。植物由来樹脂の量産化開始に合わせて2011年度から順次実施し、2020年度までに現在の使用量(国内化粧品事業で約2千トン)の50%以上を切り替えていきます。

## 3. ヒトと地球が美しく共生する社会を実現するための活動を、社内外へ積極的に提案します。

- ①社内環境プロジェクトを立ち上げ、商品だけに留まらない柔軟な視点で「エコと美が共生した新しいライフスタイル」(例えば、資源やエネルギーを節約しながら効果や価値を維持・向上した浴室まわり商品や美容法)を提案し、社会へ、お客さまへ、グローバルに発信していきます。この環境プロジェクトでは、審査会を設け、「業界初」や「他社の一歩先を行く付加価値を持つ」などの基準で、優れた商品やサービス、企業活動などを選定・ナンバリングします。
- ②社員からの「エコアイデア」の募集を継続的に実施し、毎年10件以上(前述のナンバリング相当は1件以上)を目標に、エコアイデアを実現化していきます。
- ③「エコアイデア」の一つである「椿の植林」については、単なる植林に留まらず、原料への活用、販売施策との連携など「循環」の形を目指します。

株式会社 資生堂は、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について環境省への報告ならびに、ウェブサイトなどによる公表を行なってまいります。

SHISEIDO